

千葉県旭市（国内 47 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 30 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 3.6 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：直立 6 段ケージ 4 列、通路 3 本、2 階建て

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、田畑、雑木林に囲まれ、近隣には牛農場及び豚農場があった。
- ② 当該農場には、1 棟のウインドウレス鶏舎があり、当該鶏舎は 2 つの隔壁で 3 区画に分かれており、南から 1 号～3 号舎と呼んでいた。1～3 号舎は 2 階建てであり、2 階の床はグレーチング構造であった。発生鶏舎は最も南の 1 号舎であった。
- ③ 当該農場の周辺では、本年 1 月中旬以降、本病の発生が複数例確認されており、当該農場の南西約 500m には、国内 44 例目（千葉県 10 例目）の発生農場が存在している。
- ④ 調査時、3 区画のうち 1 つは空舎であった。
- ⑤ 農場内には鶏舎の他、集卵室、更衣室及び堆肥舎があった。また、農場の北側に取り壊し予定の旧鶏舎が残存していた。

3 通報までの経緯

- ① 当該農場では 1 日 1 回見回りを行っているところ、1 月 28 日、見回り時に 1 号舎で隣接する複数ケージであわせて 10 羽の死亡鶏を認めた。死亡鶏は、発生鶏舎の 1 階、南側の列の入口と逆の妻側中段のケージの奥で固まって死亡していたとのこと。
- ② 発生鶏舎（収容羽数約 1.7 万羽、通報時 63 週齢）では平均的な死亡羽数は 1～2 羽／日であったことから家畜保健衛生所に報告したとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、通報後、家畜保健衛生所が到着するまでに、10 羽まとまって死亡を認めた複数ケージ内でさらに数羽の死亡を確認、通報翌日には、発生鶏舎の 2 階でも死亡鶏が確認されたとのこと。死亡及び衰弱以外の所見はみられず、死亡鶏以外は餌の食いつきもよく活力良好であったとのこと。
- ④ 調査当日、発生鶏舎の 1 階、南側の列の中央部分から入口と逆の妻付近まで死亡鶏が見られ、最も多く見られたのは中段のケージであり上段のケージでも複数の死亡鶏及び衰弱鶏が確認された。死亡鶏及び衰弱鶏は南側の 2 列に限局して認められた。それ以外の列の鶏は活力良好であり、南側 2 列目から通路を挟んで隣の列のケージでも死亡鶏は確認されなかった。また、死亡していた鶏の所見として、鶏冠及び脚部におけるチアノーゼは確認されなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場の従業員は 6 名で、うち 4 名は集卵室担当、2 名が鶏舎担当であった。鶏舎担当はそれぞれ担当の鶏舎が決まっていた。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 農場入口には、車両消毒用の噴霧ゲートが設置され、立ち入り禁止と明記した看板が 2 つ目立つ形で設置されていた。
- ② 従業員は、事務所で長靴に履き替え、靴底消毒をした上で鶏舎前室に入り、前室で鶏舎内専用の長靴及び作業着に着替える。前室から鶏舎に入る場合は、鶏舎専用の長靴の靴底を消毒している。1～3 号舎は扉でつながっており、長靴及び作業着を

履き替えることなく移動可能であった。各鶏舎入口には、踏込消毒槽が備え付けられており、基本導線として作業するときは消毒槽で靴底消毒をしていたが、場長が1～3号舎を見回るときは靴底消毒を都度行うことなく移動していたこともあったとのこと。

- ③ 農場への来場者は、集卵業者、飼料業者、廃鶏業者及びペストコントロール業者に限られており、それ以外の来場はないとのこと。
- ④ 換気システムは、鶏舎の東妻側の金網で覆われた通気口及び鶏舎の東側の両平側（北及び南に面する）及び妻側のクーリングパッド（東に面する）から入気し、鶏舎の西妻側に設置したファンで東から西へ排気するトンネル換気が実施されていた。なお、妻側のクーリングパッドは、平時はその多くを金属板でカバーし、一部のみ換気用に開けていたとのこと。
- ⑤ 給与水は、地下水を消毒したものを鶏舎内に供給していた。
- ⑥ 給餌用のタンク閉鎖式であり、外気に接することなくインラインで鶏舎内に供給されていた。
- ⑦ 卵はバーコンベアで集卵室につながっており、舎外部分は全て覆いがなされていた。
- ⑧ 鶏糞は、ケージ下部に設置された除糞ベルトで舎外に運ばれ、トラックを用いて衛生管理区域内の堆肥舎に堆積し処理をしていた。除糞ベルトの舎外接続部に細かな隙間を認めた。堆肥舎はネットで入り口を覆っており、堆肥は夏場のみ近隣の農家に配布しているとのこと。軟卵等の廃棄卵もバケツで集めて堆肥舎に運んでいた。
- ⑨ 死亡鶏は、数羽単位で農場の東側にある敷地内の穴に入れ燃やしていた。
- ⑩ 当該農場では、大腸菌症等の他の病気の発生歴はなかった。
- ⑪ 当該農場では、鶏舎毎にオールイン・オールアウトを行っているとのこと。空舎期間は3週間程度設けているとのこと。
- ⑫ 近隣農場での高病原性鳥インフルエンザ発生を受け、クーリングパッドに動力噴霧器を用いて消毒薬を噴霧していた。

## 6 野鳥・野生動物対策

- ① ウインドウレス鶏舎の壁面等に破損や扉の隙間は確認されなかった。
- ② 農場内では、イヌ、ネコ、カラス、セキレイなどを見かけるとのこと。実際に調査時に、イヌ、ネコ及びカラスを堆肥舎の近く、トビ及びセキレイを農場周辺で、目視で確認した。
- ③ 鶏舎ではネズミを見かけるとのこと。常時捕獲器を設置すると共に、業者に委託し殺鼠剤も使用していた。しかし、捕獲効率は悪く殺鼠剤の摂取も限定的だったとのこと。
- ④ 過去にクーリングパッドをネズミがかじって侵入しようとした形跡を確認したため、速やかにフィルターの内側を全て金網で裏打ちしたとのこと。
- ⑤ 調査時に、発生鶏舎でネズミを目視すると共に、別舎の入口等でラットサイン（糞）を確認した。また、クーリングパットに数か所かじり跡を確認した。
- ⑥ ウインドウレス鶏舎であるため野鳥対策は特に実施していなかった。調査時は第一号舎外の南側に野鳥の糞を認めた。

以上